

河野 操 目崎 美香 向井 俊博
研究パートナー 立松 大祐 池野 修

1 教科領域研究テーマ

生徒が他者や社会との関係性の中で、自由に表現できる授業展開とメタ認知力を高めるための評価の工夫

2 研究テーマ設定の理由

多種多様な物の見方考え方がある現代社会では、個性や考え方が異なる他者のことを理解し、意見交換などを通して積極的にコミュニケーションを図り、よりよい関係を築こうとする態度が求められる。外国語教育では、これらの能力を高めるために、スキルの習得だけでなく、習得したスキルを生かし、互いの考えを理解し合い、折り合いをつけながらよりよい関係を築こうとする態度の育成を目指している。社会や他者と積極的に関わり、よりよい人間関係を築こうとする態度は、変化の激しい社会で生きていくために必要な資質・能力につながるものであると考える。

本研究では、英語を通して生徒自身に他者とよりよい関係を築いていこうとする力を身に付けさせたり、教師がそれをうまく発揮させる場面を授業の中で設定したりしていきたい。そうすることによって、より広い世界を視野に入れた変革を起こす力を持った生徒の育成ができると考え、本研究テーマを設定した。

3 具体的な研究内容・方法

(1) 深い学びを実現する単元構想

「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、生徒が興味・関心のある題材について自分の思いや考えを伝え合う活動の設定が大切である。このような活動を設定するために、教師は生徒が過去に小学校英語で学んだことを把握しておく必要がある。その上で、生徒が小学校で学んだことを振り返ったり、中学校で繰り返したり発展させたりと系統的に学習をしていく必要がある。そこで、小学校の外国語科と共有できる CAN-DO リストを作成・改善し、小学校の外国語科との連携を意識していきたい。その中で、特に次の2点に留意したい。

①生徒同士、教師との英語でのやり取りを大切にし、帯活動や新文型の導入時に豊富なやり取りの場면을十分に設定し、CAN-DO リストにまとめること。

②本文で扱われている内容に関連するテーマを取り上げたり、必然性のある問いを設定したりして、「聞くこと」や「話すこと（やり取り）」の活動を行い、単元のまとめとしてパフォーマンス課題を設定し、CAN-DO リストにまとめること。

(2) 生徒の能動的な学習への参画が可能な授業

教科書の内容や教師が提示するテーマを踏まえて、生徒に「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の活動やそれらが統合された活動に取り組ませたい。また、生徒と教師がやり取りをしたり、生徒が協働学習を行ったりしながら、教師が生徒と共に学習課題やパフォーマンス課題を設定していきたい。

(3) プロセスを重視した学習の評価・改善

活動中に相互評価をさせたり、活動後に自己評価をさせたりすることにより、次の活動の改善に役立たせたり、よりよい内容の英文になるよう工夫させたりする機会を持たせる。また、CAN-DO リスト形式の到達度目標と関連させ、学習のプロセスを重視しながら、自分の能力を見極め、自己の限界や弱点、不足している部分などを生徒自身が把握できるような評価や振り返りシートの開発に努めたい。

4 校内授業計画

- 「A Mother's Lullaby を読んで、感じたことを話し合おう」（3年・7月・向井 俊博）
- 「Mini haiku battle in English」（3年・10月・河野 操）
- 「自分の言葉で発信しよう」（2年・2月・目崎 美香）